

今回は、谷 論先生をお手伝いする形で、本特集「アスリートの脊椎・脊髄障害」の企画・編集に関わらせていただきました。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の準備が進む中、脊椎外科領域においてもスポーツ医学への関心が高まっています。小職は体育系の活動が大変に盛んな大学に所属しております関係で、スポーツ医学には少なからぬ関心がございますし、体育部門との連携によるスポーツ障害の予防・早期競技復帰のための研究に携わっております。そのような経緯で、以前から、わが国の脊椎外科領域におけるスポーツ医学の最近の話題について整理してみたいと考えておりました。

「アスリートの脊椎・脊髄障害」の診療は、通常の脊椎疾患のそれとは異なります。すなわち「競技復帰」という大きな目標が存在します。そして、「種目別のスポーツ障害」の特性を理解しておく必要があります。企画・編集にあたっては、これらの点を配慮しての執筆をお願いいたしました。

実際に企画・編集を進めてみますと、「脊椎外科領域におけるスポーツ医学」を論じるにあたっては、わが国の脊椎外科そのものの特殊性を抜きにしては語れない、という思いが以前にも増して強くなりました。

わが国における脊椎外科の発展は、欧米のそれとは異なる点が多くありません。本邦では腰椎および頸椎の低侵襲手術の手法が確立しており、それが広く普及していること、本邦の脊椎疾患には、脊柱管狭窄や靱帯骨化を基盤とする病態が多く、脊椎外科医も、それらの診断・治療に精通していること、本邦の脊椎外科医は、自らがMRI、CTなどの画像診断を駆使して、新たな病態の解明や治療法の開発に挑んでいること、などです。

Torgらのアメリカンフットボール選手の頸部外傷後の競技復帰の基準は、世界基準であり、ほかの競技にも応用されています。しかし、よく読んでみると、脊柱管狭窄を改善させる手術治療についての記載がありません。また、頸部神経根症に対する後方手術（椎間孔開放術など）についての記載もなく、最新のインストゥルメンテーション手術についての評価も含まれていません。このことだけでも、欧米で確立されている診断、治療および競技復帰の基準を、そのままわが国に適用するのが適切でないことがわかります。

編集を終えて、本特集の論文を拝読しますと、わが国ならではの診断・治療法について、詳細な記載がございました。今後、わが国の脊椎外科医によって、新たな脊椎スポーツ障害の病態が提唱される、あるいは、欧米で行われている脊椎スポーツ障害に対する治療法とは異なる、新たな治療法が提唱されるという期待感が膨らみました。

(山崎正志)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 31 No. 3

(2018年3月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2018,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。